



「載帽式」

校長 堤 敏博

10月9日に行われた載帽式でお話いたしました内容の一部を転載することで、私の思いを保護者の皆様にお伝えしたいと思います。

衛生看護科二学年 二十九名の生徒諸君。君たちは、看護の道を志し、本校に入学して一年半、校内実習での基礎的な看護技術の習得や、専門科目の理論学習に一生懸命努力を傾けてきました。その皆さんも、いよいよ、病院での実地教育の第一歩を踏み出す、記念すべき日を迎えました。

先ほど、皆さんに、戴帽の儀を執り行いました。今、君たちが身に付けている、真っ白で清潔なナースキャップやハンカチーフは、身体（からだ）や心を病む人に対する優しさと謙虚な心、そして、看護の道を表す凛とした姿勢を象徴するものです。また、皆さんが手にした灯は、かつてナイチンゲールが己のすべてをなげうち、傷ついた兵士たちの看護をしたときの、献身的な精神を伝え続ける「看護の灯」であります。

本日の式典には、「おめでとう」というお祝いの意味だけではなく、「しっかり努めなさい」という意味も込められており、一般社会での成人式に相当するものであるとも言えます。成人とは、一人前の人間、よき社会人であります。よき看護師になるためには、まず、よき社会人としての素質を身につけることが必要です。自分の目標を明確にする、自分の言葉、行動に責任を持つ、自分の知識、技術と人格を磨く、そして、自分の活動が人のため、社会のために役立ち喜ばれるように力を尽くしてください。

以前、看護師になる夢を持っている中学二年生の女子生徒が書いた文を目にしました。そこには、「この素晴らしい職業に就くためには、努力を惜しんではいけないと思います。そのために今できることは、何事でも最後までやり遂げる、自分に自信を持って行動し、責任感を養う、相手の立場になって物事を考えられる人間になることだと思います」と書かれていました。ほんとうに立派な考えであり感心しました。

昨今の医療界においては、医療に携わる様々な職種の方が連携、協力して仕事をする、すなわちチーム医療が大事であると言われていています。それが円滑、円満に行われるためには、看護師の果たす立場、役割が極めて重要です。その仕事を立派に成し遂げるには、この看護学生時代から自分を磨くことの覚悟と習慣を身につけることが大切なのです。

新たな決意のもとに看護への道へと踏み出す二十九名みなさんに、ナイチンゲールの二つの言葉を贈ります。

一つ目は、「**看護は新しく生まれた芸術であり科学である。**」という言葉です。看護が芸術であるとは、看護師の手によって創られる技術は、一回限り、一人ひとりに適したものであるという意味なのです。そして、一回限りのその人にあった看護を行なうためには、その陰で何百回、何千回という基礎的な技術訓練が必要なのです。そして、看護は科学でもあります。看護実践には必ず何らかの根拠が存在します。看護師の思いや感情だけでは仕事は成り立ちません。だから、君たちは、自ら「なぜ？」を繰り返し問いかけ、形にしていけることが大事なのです。

二つ目は、看護学校を卒業して病院で働いている卒業生に対してナイチンゲールが言われた「**あなた方は、進歩しつづけない限りは、退歩していることになるのです。目的を高く掲げなさい。二年目も三年目も、またあなたの生涯を通して、この最初の一年に築いた基礎の上に立って、自分を訓練し続けなければなりません。**」という言葉です。専門職に求められる知識と技術にこれでよいという限界はありません。これからの実習が実り多きものになるよう、また、戴帽生の皆さんが、五島高校衛生看護科での経験を礎として、十年後、二十年後にも、理想の看護師になるために、自分の知識と技術にさらに磨きをかけていることを願っています。

戴帽式における校長式辞の一部を紹介しました。お子様との話題にいただければ幸いです。

戴帽式 翌日から病院実習へ

令和元年10月9日（水）メモリアルホールにて、第46回戴帽式を実施しました。当日は来賓や家族、そして普通科生徒に見守られながら、ナイチンゲールの「看護の灯」を引き継ぎ、翌日からの病院実習に向け決意を新たにしました。

命の現場に携わる者としての自覚を持ち、看護学生としての責任感を持って行動します。知識と技術を謙虚に学び、笑顔と思いやりの心を持ち、安全で安楽な看護を目指します。困難なことがあっても、仲間と協力し、共に高め合いながら目標とする看護師を目指します。

この誓いを胸に留め、これから1年間の実習を通して大きく成長していきたいと思えます。式にご参列いただきました来賓並びに保護者の皆様には、心よりお礼申し上げます。



陸上部 茨城国体・九州大会出場 **女子円盤投げ九州2位！**

10月4日（金）～8日（火）に茨城県ひたちなか市で行われた茨城国体に、3年6組の平野鈴葉さん（砲丸投）と2年6組の峰原舞さん（円盤投）が長崎県代表選手として出場しました。惜しくも入賞はなりませんでした。長崎県を背負って堂々と競技してくれました。



また、10月11日（金）～13日（日）には、鹿児島で行われた、令和元年度全九州高等学校新人陸上競技大会に出場してきました。この大会は9月に行われた長崎県の新人戦で上位3名のみが出場できる試合です。本校からは10名の選手が出場し、2年6組の峰原舞さん（円盤投）が2位、新宮圭樹さん（8種競技）が5位、2年7組の高木里菜さん（200m）が7位入賞を果たしました。この結果を来年度の高総体につなげてほしいと思えます。

防災避難訓練実施

10月16日（火）に五島消防署から3名の講師の方々にご来校いただき、防災避難訓練を行いました。調理実習室の火災を想定して、職員による通報訓練、及び職員・生徒による避難訓練を行いました。

消防署職員の方からは、「訓練に関しては言うこと無し」とお墨付きを頂きました。その後の講話では、災害発生時は、周りに流されるのではなく自分で判断して行動することの大切さを教わりました。最後に水消火器で消火訓練を行いました。

今回の訓練で得たことを教訓にして、緊急事態に備えておきましょう。



センター試験100日前集会 いざ勝負の時期へ

10月10日（木）にセンター試験100日前集会が行われました。

3年2組の佐々野樹弥さんと、3年5組福元笑美乃さんが「決意表明」をしました。また、55名もの保護者の方々にご来校いただき、保護者代表として堤智代子様より「激励の言葉」をいただきました。堤様からの温かい言葉に母親の思いを感じ、思わず目頭を押さえる生徒もいました。3人が話し終えた後の温かい拍手は、全員の思いが1つになった瞬間だったように思います。

今後のご家庭と学校で1つになって、生徒たちを支えて参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



読書感想文コンクール

10月4日（金）に読書感想文コンクールが行われました。受賞した作品は、内容を自分に反映させて考えられたもので、すばらしい文章ばかりでした。本は、知識や語彙の学習だけでなく、想像力や思考力を育みます。忙しい中にも読書の時間を作り、自分の人生を自分でより豊かにできる力を養ってください。

賞	タイトル	氏名	本の題名
優秀賞	二つの「生き方」	村井 マリア（2年5組）	歌え！多摩川高校合唱部
	実行する力	佐々野 華帆（1年1組）	ヒマラヤに学校をつくる カネなしコネなしの僕と、 見捨てられた子どもたちの挑戦

福江みなとまつり



本年度の福江みなとまつりは、天候にも恵まれ大いに盛り上がりました。五島高校からは、生徒・職員やPTAの有志の皆様で合わせて250名ほどが参加いたしました。五島高校は10月5日（土）の参加で、生徒の引くねぶたや吹奏楽部の演奏に対して、沿道の皆様からは大きな声援とあたたかな拍手をたくさんいただきました。地域と五島高校とのつながりの強さを改めて感じることもできる、あたたかみのある行事になりました。

保護者の皆様には、ねぶたへの参加など多くの御協力をいただき、誠にありがとうございました。今後も、地域行事への参加を積極的に行い、地域に支えられ愛される五島高校でありたいと思います。